

ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 56

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料を紹介します。

(書名の後の()の数字は請求記号です。)

Q 昭和33年、関東地方で被害をもたらした台風について。

A 『昭和災害史事典』(開架 R369/N71)

索引で調べたところ、台風22号『狩野川台風』ということがわかる。

図書 → ことばから調べる → 狩野川台風 (9件該当)

写真

『昭和 二万日の全記録 11巻』(開架 210.7/Ko19/11)

『昭和史 決定版 15巻』(210.75/176)

『報道写真に見る昭和の40年』(210.7/Y81)

内容

『昭和史災害史年表事典 2巻』(開架 R369/N71/2)

『天気と元気』(451/F61)

『朝日新聞縮刷版 昭和33年』(071/A82/1978)

その他、映像資料

『映像でつづる昭和の記録17』

(この資料は5階 映像・音響室にてご覧いただけます。)

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

・・・もう一冊！！！！・・・54

書店で本を買くと、そのまま紙袋に入れてくれる場合もありますが、案外多くの書店が紙カバーをしてくれます。そのまま読むことができるし、便利なものです。その上、書店ごとに結構凝ったデザインのカバーを使っているの、一寸楽しめます。このカバーは中国では書皮と言うそうです。なるほど本の皮ね、分かるような気がしますね。以前古書展で、この本屋の紙カバーコレクターのグループ会誌が出ていて笑いました（少し欲しかった）。これは新刊の本屋でもなかなか良いのがありますが、やはり個性が売り物の古本屋には傑作が少なくありません。老舗一誠堂のカバーは地味ですが良いし、古本屋の R. S. Books（八重洲地下街の小さな店です、金井書店の出店かな？）のカバーは、ヨーロッパの19世紀ころの本の挿絵から取った製本所のイラストを背景にした、なかなか良いものです。新刊書店でも、神保町の十字屋のカバーは、数十年のお付き合いで、忘れられません。カバーも書店ごとに特色がありますが、その包み方にもいろいろあることに気がつきませんか？一番多いのが、普通に包んでセロテープで止めるケース、次は、セロテープの代わりに輪ゴムで止めるケースです。これも、パタパタとぞんざいに包む店もありますが、神保町の田村書店などは、隅をきっちり折りながら、最後にパチンと輪ゴムをかけます。見事です。先ほどの十字屋は、今は少々略式になりましたが、単行本でも雑誌でも、本に合わせて缺で紙を切り、丁寧に隅を折り込んでカバーをしてきていました。最後に輪ゴムです。最近の書店で割合に多いのは、上下を折っておいたカバーに表紙を挟み、もう一方を巻き込んで輪ゴムで止めるタイプです。まあ、こんなところが妥当です。中には、本のカバーを外して紙カバーで包み、再度本にかけると言う面倒なことをする書店もあります。サービス精神なのは良く分かりますが、これは本のカバーが本自体になじまなくなるので良くありません。筆者は、この手の書店では、包むだけにしてください。と注文します。変な客だと思われるのでしょうね。デザインの良いカバーの時は、カバーだけ折らずに別に下さいと、ずうずうしく注文します。馬鹿ですね。

ま、たいした問題ではありませんが、凝ったデザインのカバーを作り、丁寧に包んでくれる書店は、本が好きな店主であること、確実です。通いたくなりますよね。（午睡）



— 図書室から —

お濠の緑がまぶしいこの季節、小中学生の社会科見学が目立つようになりました。子供たちの目にはどのように映り、感じているのでしょうか？

* 忘れ物にご注意ください！

閲覧テーブルや椅子など退出する時には、身の回りをご点検ください。また、コピー機に複写した資料を忘れる方も多いのでご注意ください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 56
2004年5月20日 発行
編集・発行 昭和館 図書室
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1